

# —図画工作科の研究—

加賀美 信行

## 1 研究主題

「自分の思いを創造的に表し、お互いのよさや価値などを認め、高め合う子供の育成」

## 2 研究主題について

### (1) 研究総論との関連

本校研究主題は「ともに学び、学び抜く子供-非認知能力に注目した授業を通して-」である。それぞれの教科において、「ともに学び、学び抜く子供」の姿を育成するために、1, 2年次と子供の学びに向かう力のもとになるであろう「意欲」と学習や課題の取り組みに対する「粘り強さ」に注目し、「意欲」「粘り強さ」に働きかける授業づくりを行った。

本校研究主題にある「ともに学び」とは、人と関わり合いながら、主体的に学ぶ子供である。自分の考えを友達に伝えること、友達の考えを聞くこと、友達の考えと比べること、友達と協力することなどを学習活動に取り入れることで、教科の学びを深められると考えている。「学び抜く」とは、自分なりに考え、試行錯誤しながらやり遂げる子供である。以上より「ともに学び、学び抜く子供」とは、困難な課題に対してあきらめずに向かい合い、試行錯誤しながら取り組んだり、協働して解決策を考えたりしてやり遂げようとする子供の育成を本校は目指している。

困難な課題に対してもあきらめずに向き合い、試行錯誤しながら取り組んだり、解決策を考えやりとげようとしたりする子供である。

図画工作科の目標である「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育成するために、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせていくことが大切である。造形的な見方・考え方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点でとらえ、自分なりのイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことである。見方・考え方は、直接育成をすることを目的とするのではなく、資質・能力を育成する過程で子供たちが働かせるものである。

### (2) 図画工作科における「意欲」「粘り強さ」について

これまでの研究より「意欲」「粘り強さ」「創造力」を以下のように整理した。

|                  |                                                                      |                                                                                                                     |
|------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意<br>欲           | 自分が表したいこと（主題）を見つけ、表している姿<br>他者の表現に関心を向けている姿                          | 「面白そうだな」<br>「それやってみたいな」<br>「こんなことしてみたいな」<br>「こんな風にしてみたいな」<br>「こんなことできるかな」<br>「これいいね」<br>「これ試してみたいな」<br>「これどうやってやるの」 |
| 粘<br>り<br>強<br>さ | 表したいこと（主題）を表すために試行錯誤する姿<br>友達の表現から自分の表現を見つめなおしている姿<br>よりよい表現を求め思考する姿 | 「もっとここをこうしてみようかな」<br>「どうしたらもっとよくできるかな」<br>「ここどうしたらいいかな」<br>「こうしてみようかな」<br>「やってみただけなんだかなあ」                           |

|     |                                              |                                                                    |
|-----|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 創造性 | 自分なりの意味や価値をつくり出している姿<br>知識や経験を元に発想を広げ表現している姿 | 「よし、できた！」(満足そうな様子)<br>「ひらめいた！」<br>「いいこと思いついた！」<br>「あっ！」(何かひらめいた様子) |
|-----|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|

上記「意欲」「粘り強さ」が姿として見られる時、子供たちは造形的な見方・考え方を働かせていると考える。自分が表したいこと(主題)を見つけ、表す姿も、より良い表現を求め思考している姿も、他者の表現に関心を向けている時にも、その対象となるものを捉える際に、形や色などの造形的な見方・考え方を働かせている。また、表したいこと(主題)を表すために試行錯誤する時や、自分の表現を見つめなおしている時は、まさしく「つくり、つくりかえ、つくる」という図画工作科の本質に迫っていく姿でもある。

「創造力」とは、自分のオリジナルの方法で新しい自分なりの意味や価値を創り出す力である。「創造力」が姿として見られる時、子供たちは自分がもっている知識や経験を元に発想を広げ、自分なりのイメージをもち、表したいことを表そうとしていると考えられる。

子供たちが自分なりのイメージをもちながら、そのイメージに近づけられるように試行錯誤して、自分なりの意味や価値をつくりだせる授業づくりを大切にしていきたい。

### (3) 図画工作科で考える「ともに学び、学び抜く子供」の姿について

図画工作科における「ともに学び、学び抜く子供」の姿は以下の通りである。

|                                                   |
|---------------------------------------------------|
| 自分の思いを創造的に表し、お互いのよさや価値を認め高め合い、表したいことを表すために試行錯誤する姿 |
|---------------------------------------------------|

「自分の思いを創造的に表す」姿とは、「ともに学び、学び抜く」ための出発点ともなる姿であると考えられる。図画工作科において、造形遊びをする活動のように材料やその形や色などに働きかけることから始まる活動と、絵や立体、工作に表す活動のように自分の表したいことを基に、これを実現していこうとする活動がある。造形遊びをする活動は、児童が材料に働きかけ、自分の感覚や行為などを通して形や色などを捉え、そこから生まれる自分なりのイメージを基に活動をしていく。そして、絵や立体、工作に表す活動では、感じたこと、創造したこと、見たことなどから児童が表したいことを基に表していく。どちらにも共通しているのは、必ず自分が表したい思いやイメージがあるということである。自分の思いやイメージを基に、児童は創造的に表していく。そして、友達と交流する中で、お互いの表現のよさやつくり出したものの価値について認め合ったり、助言し合ったりして、それぞれの表現を高めていく。

「お互いのよさや価値を認め高め合う」姿とは、上記のような友達との関わり合いの姿であり、本校研究主題にある「ともに学ぶ」姿であると考えている。

また、造形的な遊びをする活動では、児童は一度つくって満足することもあるが、つくっている途中で考えが変わって、つくりかえることもある。次々に試したり、再構成したり、思った通りにいかないときは考えや方法を変えたりして、実現したい思いを大切に活動する。そして、絵や立体、工作に表す活動では、表したい思いやイメージはあっても、その通りに表すために材料や用具を工夫したり、友達の活動を鑑賞する中で新たな表現方法を思いついたりし、自分がもつ思いやイメージと活動とをすり合わせて具体化していく。このように、「表したいことを表すために試行錯誤する」姿は自分の思いやイメージを表すために表現し続けることであり、本校研究主題にある「学び抜く」姿であると考えている。

以上のような姿が児童から見られるような手立てを追求し、実践していく。

## 3 研究内容 「ともに学び、学び抜く子供」を育成するための授業について

### (1) 3年次の研究について

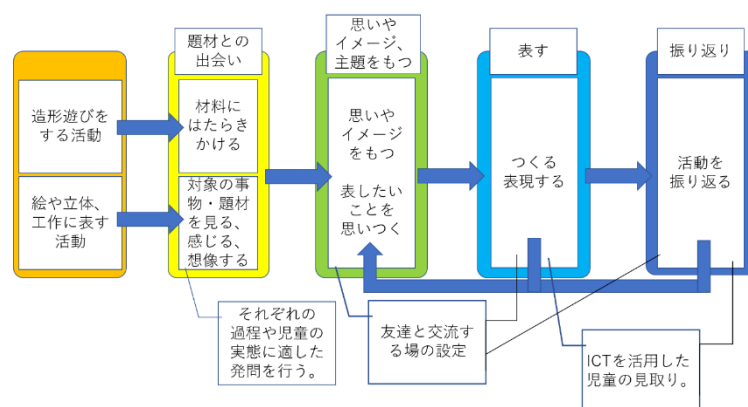
1年次は、題材の設定や計画が、児童が意欲的に取り組むために大きな役割を果たしていた。授業の中では、児童が思いや考えを話しやすい発問を多く行えたことにより、児童が自分の思いや考えを言語化して説明する中で、漠然としていた部分を具体的に考えたり、発想を広げたりする手立てとすることができた。そして、児童が自然と友達と交流し合えるような場や雰囲気づくりを行えたため、自然と近くにいる友達とお互いの作品について交流したり、相談したりすることができていた。その結果、ほとんどの児童が創造的に表すことができていた。しかし、児童がイメージを広げていく際の、教師の投げかけ方により、一部の児童にとっては考えにくくなってしまった可能性があり、身近に考えられるような投げかけ方があったのではないかとといった部分が課題となった。児童がもつ創造力に制限をかけない発問等の投げかけを行うことを意識していく必要がある。

そこで2年次は、図画工作科で重視されている児童一人一人の「創造性」に着目し、より一層児童が創造的にのびのびと表現ができるように授業実践を行った。導入での題材との出会い方の工夫など様々な手立てを講じたことで、意欲や粘り強さが高まっている姿を授業の中で見ることはできた。しかし、題材の目標と目指す子供の姿の一致について微妙にずれがある部分が見られた。意欲・粘り強さと、ともに学ぶ姿との関わりもだが、その時間で働かせたい見方・考え方とも関連して、目指す子供の姿を洗い出すことが課題として挙げられた。また、意欲・粘り強さ以外の非認知能力として、図画工作科で大切にされている「創造性」についてもさらに深めていく必要がある。ICTの活用についても、効果的に活用はできているが、工夫の余地があるとの課題も挙げられた。

そこで3年次は、非認知能力である意欲と粘り強さ、そして、図画工作科で大切にされている「創造性」が表れている児童の姿をより具体的に示していきたい。そして、子供たちが見方・考え方が働いている姿の3つの姿との関わりを意識した授業づくりを行っていく。そして、ICTの活用も一つの手立てとして、目指す子供の姿がより表れやすいよう、工夫して活用していきたい。

## （2）図画工作科における「意欲」「粘り強さ」「創造力」に働きかける授業について

図1のような過程で図画工作科では授業実践を行っていく。「造形遊びをする活動」も「絵や立体、工作に表す活動」もどちらもまず、「題材との出会い」をし、そこから「思いやイメージ、主題をもつ」過程があり、そして児童一人一人がもった思いやイメージ、主題を材料や用具を工夫して「表す」過程があり、学習の最後には自分の「活動を振り返る」過程がある。また、「表す」過程でも「振り返り」の過程でも、初め表現しようと思っていたことに戻り、新たに思いついたことなどを表すなど、行きつ戻りつを繰り返しながら、自分なりの表現をしていく。



【図1 授業の課程】

### (3) 3年次の具体的な指導方法の工夫、手立てについて

#### ① 発問の検討

図1に示したような学習過程の中で、それぞれの場面に応じて、児童の創造性や意欲・粘り強さに働きかける発問について、加賀美（2021）を基に1単元や1時間当たりの発問構成表を作成し、児童の実態に合わせて発問をしていきたい。

#### ② 友だちと交流する場の設定

図1で示したように、友達と交流する場の設定を、それぞれの場面で必要に応じて、効果的に設定していきたい。友達と交流する中で、児童が友達の活動を参考にしたり、友達の一言から新たなことを見つけたりする場となれば児童も自分が表したい思いやイメージにより近づいた表現ができると考える。

また、友達から自分の表現について肯定的な意見をもらうことができる場となれば、児童はより安心して、自分の表したいことを自信をもって表現することができると思う。

#### ③ ICTを活用した授業の工夫や児童の見取り

図画工作科におけるICTのメリットとして、自分の制作の様子が友達と共有することや活動の一瞬一瞬を画像や動画で残すことがしやすいと考えられる。また、ワークシートをデジタル化することで、児童は自分が活動した成果物をその場で写真に撮り、その写真をワークシートに張り付けたり、自分がその時間に工夫したことを打ち込み、その表記したものと写真を線で結んでよりわかりやすくしたりすることも可能である。

これにより、子供たちのその時、その時に働いている見方・考え方がとらえやすくなり、文字での表現が苦手な児童にも、自分がその時間、何を考え、どこを工夫したのか記録に残しやすくなると考える。そして、何より、刻一刻と変化していく子供たちの活動や、制作の様子の一瞬一瞬を残し、それを全体で共有できることがICTを活用する上でとても大きいと考える。

以上の手立てを行うにあたり、前提となるのは、児童が意欲的に活動できるような題材設定や、安心して活動できるような教師の働きかけや場の設定などがされていることである。これらは、これまでの研究の積み重ねから、児童が意欲的に安心して活動するために有効であることがわかっている。これらのことも踏まえた上で、上記3つの手立てについて、今年度も実践していく。

#### 〈引用文献・参考文献〉

- ・ 文部科学省（2018）「小画工学習指導要領解説 図画工作編」
- ・ 小塩真司（2021）「非認知能力 概念・測定と教育の可能性」
- ・ 奈須正裕（2017）「『資質・能力』と学びのメカニズム」
- ・ 奥村高明，有元典文，阿部慶賀（2022）「コミュニティ・オブ・クリエイティビティ」
- ・ 河村茂雄（2022）「子供の非認知能力を育成する 教師のためのソーシャル・スキル」
- ・ 南 育子（2021）「子どもとつくる 図画工作」
- ・ 岡田京子（2020）「その子は、なにを描こうとしたのか？」
- ・ 岡田京子（2015）「学び合い高め合う『造形遊び』」
- ・ 日本教育評価研究会（2019）「指導と評価」
- ・ 山梨大学教育学部附属小学校研究紀要（平成15年度～令和5年度）